第3回三田市高齢者外出支援策に関するあり方懇話会 会議録

【日　時】　　令和5年11月16日（木曜日）10時00分～11時30分
【場　所】　　三田市役所2号庁舎3階2301会議室
【委員出席者】11名
　　大和座長・石塚委員・内布委員・畑委員代理・平井委員・今井委員
　　北澤委員・本村委員・小田桐委員・岡田委員・上野委員
【オブザーバー出席者】2名
　　神姫バス株式会社三田営業所 宮本副所長
　　神戸電鉄株式会社鉄道事業本部運輸部 村上課長

【次　第】
1　はじめに
2　今後のスケジュール
3　高齢者運賃助成見直しの素案について
　(1) 高齢者運賃助成制度の見直しの考え方
　(2) 高齢者運賃助成制度の見直し素案
　(3) 高齢者運賃助成制度の見直しに当たっての課題・懸念事項
4　おわりに

【議　事】

事務局	開会 ・出席委員確認 ・資料確認
座長	では、次第に沿ってまず2今後のスケジュールにについて事務局から説明してください。
事務局	・今後のスケジュールの説明（第 4・5 回懇話会、市民意見交換会等） ・会議録の公開について
座長	ありがとうございました。素案について事務局から説明してください。
事務局	3　高齢者運賃助成見直しの素案について (1)　高齢者運賃助成制度の見直しの考え方 (2)　高齢者運賃助成制度の見直し素案 (3)　高齢者運賃助成制度の見直しに当たっての課題・懸念事項について説明
座長	ありがとうございました。只今のご説明について、ご意見はありますか。
A委員	説明頂いた案について、一番気になるのは結局予算です。 　今の計画では、高齢者がどんどん増えるので予算がかかり、サービスが半減するという考え方をしている。 　将来ビジョンで高齢者が増える中で持続可能なものは予算以外に地域資源の活用だと思う。前回も言ったが、地域の中には働ける人

	が沢山いる。その人達が近所で誘い合い地域移動支援していくということを少し考えればいい。 　地域資源の中の社会資源を使う仕組みとして、市が第三セクターや外郭団体で働ける環境を作ってあげる。シルバー運転手の募集や国交省の許可をとる等、事業をしやすくなるように支援をすれば地域の中にはまだまだボランティアとして少しのお金でやってくれる人がでてくるのではないか。 　一度リタイアした後に地域の中で何かをするとなると、年齢制限は必要で 65～75 歳の間で出来るかとか、第 3 セクターとして運転手を募集する仕組みを入れればもう少し持続可能になる。この計画では公共交通の予算（利用助成）を負担していくのは高齢者が増えていくのであれば、持続できる方法を考えるべき。
座長	ありがとうございました。大変有意義な意見です。今のところはいいが、本当に持続可能なことを考えると早晩立ち行かなくなるということですね。その時のために仕組みを作っていけばどうかという提案です。
B 委員	私の地元の町では相乗りタクシーを実施されている。問題は稼働タクシーの数が少なくなるということです。 　どこのタクシー会社に委託しているのかわからないが、どこの範囲まで行くかということで、通常使っている人が使えなくなったり、高齢者が増えるとタクシーの数が足りなくなったりということが問題になってくると思う。 　特に問題視されているのは、降車した後に病院に患者さんがたまってしまい、病院側が困ってしまう現状である。そこをどうしていくのかが一つ課題であると思う。ただ、先の意見で出た一般の方の車を使ってタクシーの数を増やしていくとか 70 歳以上の働けるところを作って働ける方を募っていくのは一つの案だと思う。
座長	ありがとうございます。確かにそうだと思います。タクシーの運転手さんも高齢化していて急激に数が減っていることがあるみたいなので、新しい移動のしくみとなると国交省との関わりがあることとなる。
C 委員	私は地区でボランティア送迎をしている。例えば、家から三田市民病院まで 2,000 円くらいかかるが、1,700 円で、その内ボランティアの方に 800 円支払う。会員制にしている。元気な高齢者とそうでない方がいてひとくくりにされてはと思う。財政の話をされたが、どこまで天秤にかけられたのか。 　私の団体では地域の方に声かけをしてボランティアをしている。月に 100 件利用がある。始めてから 20 年くらいになる。陸運局に許可を得て有償のボランティアの仕組みを使っている。陸運局から「気をつけて運用しないと白タクになる。」と言われた。 　事故が起きた時の保証やいろいろな問題が起きる。高齢者の運転手は認知症になっていないか、運転ができるかどうか等の適正検査をしなければならない。アルコールのチェックや、受付業務もしている。そんなに簡単なものではない。 　ただ、市の方からの負担は頂いてない。ボランティアの組織の中にはお金はそんなに残らない。仕組みを作っていかないといけない。一

	番困っている方は、元気な方より歩けない方。年に一回募集をかけないとボランティアの数が減っていく。この仕組みはなくすわけにはいかない。法人としてやっていくには、活動していただいた方にどう報いるべきかだと思う。
座長	ありがとうございました。20 年間かけてこの仕組みを作ってこられたということですが、地域で実施されるボランティアも簡単なものではなく、持続していくための仕組みづくりが必要とのことですね。
C 委員	1 万人くらい人口おり 3000 世帯くらいになる。自宅からバス停まで 1 キロの方やそうでない方もいる。同じ様な状況が他の地域でもある。
座長	ありがとうございました。ほかにございますか。
D 委員	高平に住んでいます。相乗りタクシー制度を使うとしたらどうか。使う方の立場で思うと相乗りする相手をどうやって探すのかなと思う。同じ方向、同じ日に行くことを連絡しあわなくてはいけないが、個人情報があり連絡を取りづらい。利用するとなれば、コミュニティの一つで、ここに連絡しとけば誰かが連絡してくるとか、その日は市民病院まで行くという人ができるまでマッチングが難しい。一人で利用することになれば最高額を一人で払うということになってしまい、ますます使えない。友達同士であれば普通に相乗りする。制度として難しいのかなと思った。 持続可能なところで、高平は無償ボランティアで、ガソリン代まで自分で負担しているボランティアに支えられている。利用者は、2 週間前までに申し込まなければならない。年会費 1000 円を負担いただくが、ガソリン代と本人の保険代だけで消える。最近、うれしい話で、高平だけを巡回するボランティアを「サポート高平」がこれからやっていく検討に入ったというニュースを聞いた。ボランティアを無償で、そこで持続しているのか、善意が持続しているのか不安である。 予算が無いのでボランティアの会議すらもない。ボランティアの人達に感謝状の一つも渡せないだろうなと思っている。私もボランティアの一人だが、一度も誘ってもらっていないし、他の人との情報交換をする機会も得られないのでモチベーションが下がるのではないかという気持ちでいる。もっと市として広報活動とかからボランティアの人に感謝しているとコミュニケーションを持ちモチベーションをあげる支援をしていただけたらやる気につながる。元気な体力のある若い高齢者がいっぱいいて気持ちはあるがモチベーションが上がらない気がする。善意だけで支えられていると感心している。
座長	ありがとうございました。相乗りタクシーについて、まだ検討中だと思うが、何かほかにありませんか。
事務局	現状の制度の説明をさせて頂きます。市から発行している 500 円の割引証は、タクシーを利用する場合はそのまま割引証として使えます。友達と示し合わせて一緒に乗ってそれぞれ券を使っていただくことも可能です。今の段階で想定しているのが、ご負担いただく上限を設け、相乗りを推奨し、自己負担をさらに減らしていただくことです。タクシー事業者に協力を得られるかどうかも含めて、他市事例な

	どを参考にしながら進めていきたいと考えています。
E 委員	持続可能な仕組み作りを市の方から提案をされて、懸念事項について説明を受け納得したつもりでしたが、皆さんのご意見を聞いていると、バス・タクシー・鉄道はこれでよいかもしれないが、ラストワンマイルとおっしゃっていましたが、そこがうまく繋がっていないから良い制度があっても実感はしていないので、上手くいかないのではないかと思いました。 1 つの提案ですが、バス・タクシー・鉄道の制度は市が補助している。我々の税金が使われている。そこまで利用しに行くのにボランティアの方が自身の車で送迎する等ご苦労されている。国もライドシェアをやろうとしているが、バス・タクシー・鉄道はあるが、ボランティアの方々でやっているところを市として助成することが必要だと思います。バス・タクシー・鉄道以外に、何というのかわからないがそういうのも入れてご検討されたらいいのではないかと皆さんの意見を聞いて思いました。
座長	ありがとうございます。ラストワンマイルの問題について事務局からご説明や補足をお願いします。
事務局	今まで出していただいたご意見と、市がやっているラストワンマイルに対する取り組みをご紹介させていただきます。 地域の無償ボランティア活動もしかり、タクシーもしかり、バス・鉄道もそうですがどこの分野でも担い手の確保が非常に大きな課題となっています。とにかく今ある地域の資源をいかに活用していくかというところがネックになっています。地域で無償ボランティアをしていただいていますが、皆様の会話の中にも白タクという言葉が少し出ていて、国でもライドシェアの法制度・法改正・ルールの見直しが急速に進みつつある中、現状は白い色のナンバーの自家用車でお金を頂戴して輸送することは一定の条件を満たさないとルール作りが難しいというのが現状です。 その中でルール作りのお膳立てとして、市の職員が陸運との協議・登録、車両の準備、ボランティアで活動していただいた方への謝礼、かかる燃料代を全部市がバックアップをしています。環境を整えるので、運行は地域でやっていただくということで進めているのが「おでかけサポート事業」というものです。既存のルールがガチガチで活動できる範囲が限定されていたり、なかなか皆様のニーズに合致したものが出てこないということがありますが、「おでかけサポート事業」のルール改正が進んでいく中で形を変えながらそれぞれの地域に合った形で進めていこうとし考えています。 例えば、広野の最寄りのバス停まで送迎しましょうということで、幹・枝・葉の葉っぱの部分をしっかりやるということで私達が環境整備をして地域でやっていく。 もう一つは、実証実験だが、ラストワンマイルで鉄道に接続する・市民センターに接続する等少し範囲を広げたラストワンマイルの取組みがあります。バスが走っていない地域でこのことが実現できた。これも「おでかけサポート事業」で同じ事業です。地域、地域で色々な顔を持っています。 高平のうれしい話「高平サポート」、高平地区の中だけで巡回して

	いくという話は市が全部環境整備できる可能性が高まってきます。 　地域の実情、変化していく地域の実情に私達もしっかり入れさせていただき、環境整備をしていこうというプログラムもあります。 　三輪北部などでは、答えの出ない答えを一緒に探しだしていこうという検討会を進めている地域もでてきています。 　私達の広報不足も否めないが、既存の事業をしっかりとフル活用していただきながら、幹・枝・葉の葉っぱの部分を充実させていって、ラストワンマイルを充実させながら担い手を地域の中だけでなく市内全域で、色々な提案を取り入れながら葉っぱの部分を充実させつつ、枝・幹にあたる鉄道・バス・タクシーの移動をどうすればできるかいうところを助成という形で活用できないかというご提案です。 　高齢者は元気な方もいらっしゃれば、歩けない方もいらっしゃる。前回の復習になりますが、元気な方はよりいつまでも元気によりいつまでも自律的に活動できるようにこういった取り組みを政策していきたいという思いを持っています。
F 委員代理	地域の皆さんのご意見を聞いて、C 委員がおっしゃっていたボランティアでというところが多い。 　去年、バスが 1 日 2 本しかない地域で、コロナ禍であっても、年間 500 件、600 件という需要があった。生活支援がメインではあるが、家から病院、家から市役所のドア to ドアの活動がある。 　公共交通機関を利用したいが、そこに行くのが無理ということと、交通の便が少ないので次のところに行けない。病院は時間が限られているので行けないという現状がある。 　年金支給額が減ってきているので厳しい。 　利用されている方の層によっては、市が提案されていることが有効な場合とそうでない場合があり、2 本立て・2 階立てで考えないと、一律では難しい。 　昔はバスは小型で細い道でも走っていた。その頃は使いやすく皆使っていた。今は大型化して大きい道路しか走らなくなった。ニュータウンの方々でもバス停が近いエリアに住んでいる方は乗れるが、エリアの外縁に住んでいる方はバス停が遠く乗れないという問題が起きて、病院に行くことすら困難になってくるということが起きている。ニュータウンの方もそれをどうするかということになってきています。住民たちは助け合いの活動としてボランティアで何とかしたいと思っているが、事故があったりや保障のことを不安がっている。困っているという声があるので何とかしたいという善意があり、そこだけで一生懸命にやっている。10 年超えて活動をして事故がなしとなっていると状況ではあるが、常に不安がっている。そこをどうサポートできるかということが本来重要なのではないかと思っています。 　陸運局の話もありましたが、住民たちもすごく相談をされていますが超えられない壁があり、そこを行政としてどうサポートできるかということと、公共交通機関とどううまく連携しながらすみ分けをしながらも、対立ではなく補完しながら担えたらいいのではないかと思う。人口減少と担い手不足も喫緊の課題で、どっちがどうとかではなく、両方が上手く回れるように握んでいかないとなかなか難しいし、財政も厳しくなると思う。

	先程、言われていた様に、年齢が上がっても元気で車の運転ができる方にはボランティアで有償という形でしていただく方向でバックアップ出来たら、もっと活動してくれる方も増えるのだろう。 保障が不安なので、皆さんなかなか出来なくて、コーディネーターは出来るが、付き添いのような生活支援の方が病院の入り口まで行かれたり、2 人で行かれたりすることもあり、そういうことは出来るが、運転は出来ないという方がいらっしゃる。 車を準備するという話があるが、人によっては慣れた車でないと不安である。ミラーの角度などが違ってくるので他人の車は不安やというのがあって、自分専用で乗らないと座席が変わる等色んな難しいという声がある。そういう背景も色々ある。
座長	ありがとうございます。
C 委員	私の活動は、最初 4 人でスタートした。最初は無償ボランティアでやっていた。同じ様にだんだん広がっていく中で、何年か経つと、継続することが難しくなってきた。 常に無償ボランティアということだけに頼っていると何処かで詰まってくるので、その段階で、料金の見直しと、保険の問題にもなります。当初は年間 600 円の条件で、1 億円の保証のある保険を掛けている。そういうことをきちんとしないと有償ボランティアはできない。利用者が増えたら良いものの、利用する方とボランティアのバランスの問題もある。
A 委員	やろうと思っても、地域の中でやりたいと思ってもリスクがある。だからそこをカバーリングできるように行政に担って欲しい。そうすれば事業を起こせられる。 C 委員が難しいと言われるが、難しいところをカバーするのが行政である。環境を作ればやってくれる人がでてくる。 第 3 セクターでカバーできる体制が出来るようになれば、相談しながら手続き上の処理をすることができるのではないか。 上手く変わっていくのではないか。
G 委員	皆さんのご意見は、交通の幹・枝・葉の葉っぱの部分を充実しないと幹・枝が使えないという話で、ごもっともだと思います。 A 委員がおっしゃっておられたところは、市のご説明の「おでかけサポート事業」をもう少し解明して、市民の方がやろうとして時に使えるようにならないといけない。私自身、認識させていただきました。 ただ皆さんが気にされている持続可能を考えると、幹・枝が持続可能出ないと葉っぱが持続可能でない。公共交通自体は私自身無くしては困ると思っています。バスが無くなってきているから今困ってきている。その部分を含めて考えていかないといけないと思いました。 前回は高齢者の方が病院とか買い物に行かざるをえないのでボランティアに支えられて行けるように努力されていると言うことなのですが、ただ愉しみの外出には遠慮して行けないという話があったかと思います。 移動の多様性も含めて今回の見直しをどういうふうに使えるかという観点でご意見を頂けると有意義ではないかと思います。 これは資金支援のように思いますが、資金支援はほんの一部であっ

	て、これをきっかけに沢山外出をしてもらうためのきっかけづくりです。 　今回、現行制度では1年間7,500円でみんな1年間の移動が賄えるかというと、全然賄えない。きっかけづくりを高齢者の方々に、豊かな生活に活用するためにはどう見直したらいいのかというところ視点でもご意見を頂けるといいのではないかと思いました。 　「タクシーの相乗りはなかなか難しい」という話もありましたが、それもそうだと思います。 　今回、鉄道・バスについてもどうだというご提案も頂いているので、そのあたりの皆さんのご意見を頂かないといけないと思います。
H委員	これはもともと高齢者の外出支援者が懇話会のテーマなのです。ある程度、自立している高齢者を想定している。障がいであったり、要介護が高くなったら福祉の方の分野になると思う。 　バスもタクシーもどんどん少なくなっている。今日より明日、1年後より百年後。持続可能で私達がどんなに知恵を絞ってもバスは無くなるしタクシーも台数が少なくなる。タクシーを頼んでも1時間待ち、1時間半待ちが今の現実です。知り合いに頼んでも1時間待ち。1台が他のお客さんを乗せて戻ってくるまで大体1時間かかり、それから迎えに来る。おっしゃる通り運賃助成制度は自立した方がちょっとでもこれをきっかけにおでかけになる制度だと思う。課題はバスもタクシーももうすぐなくなるので、これは構造的に変化に対応する仕組みを課題にしないと3年後、4年後にはバスもタクシーも現実全然無い。助成制度ではなく別の方法を考えないといけない時期に差し掛かっている。今年はこれでいいかもしれないが、3年後、5年後にはどうなるのか。三田だけじゃなく全国的な話である。バス会社もタクシー会社も運転手さんの生活がある。持続可能ではない。 　タクシーを頼んでも来ない。現実そういう時代になっている。当座はベストな案ですが、いずれは別な制度の仕組みに移行せざるをえないと思います。 　外出支援策なので、自立している方が、これがないと生活に困る人はほとんどいらっしゃらないと思うが、これをきっかけにちょっと出てくれたらという感じです。 　本当は出づらい人は福祉の分野になってしまうので、福祉タクシーや付き添いの人と一緒にお出かけしないといけないと思います。 　乗車券がずっとあるとしても、支援されている金額では用事は済ませられない。実際には使えない。皮算用である。
I委員	現行制度では、乗車券を買っても使わず、いっぱい溜まってきてしまったという話を聞いた。使った分だけ後で割引いてあげればいい。
座長	Iさんありがとうございます。参考にさせて頂きたいです。
A委員	この支援制度を運用したらバスが生き残れるのか。年に数回しか利用してくれない券をもらってバスを維持できるのかというとできないです。 　バスが運行しているから使ってという仕組みの中でこの制度がやれる。現実高齢者がバスに乗らないから、タクシーとかに移行する。当然バスの運行する便が減ってきている。地域の交通が変わってきている。そこも視野に入れると地域で支える取り組みも変わってくる。こ

	れでバス事業を支えられるのなら負担していくのがいいかもしれない。現行制度の年に 3 回、4 回乗ったら使い切るようなものが、見直して 10 回乗れます。バス事業が運営できるかどうか、地域交通は難しい。
座長	H 委員のおっしゃったことは衝撃的で、数年後には全然変わった景色になる。とりあえず今はこの現状で、外出支援のきっかけになるのではないかということで未知の部分を手当てしていきましょうという考え方で、バス会社を支援していくこという考え方ではない。地域が大事になるので、地域を今のうちに盛り起して参加できるような制度支援も行政には必要だと思う。 時間も迫ってきました。
事務局	各委員からでているライドシェアも始まり、白ナンバーでも輸送が始まる。地域の活動にもルールがある。利用者の安全を守るという意味でも、交通違反をしていないかとか確認しているのと、必ず講習を受けてもらわないといけない。身近なところで完結できる仕組みを考えなければならない。
座長	他にご意見がありますか。
C 委員	H 委員の意見は非常に重要である。ここで解決できるのかどうか、国全体の制度など根本的な考え方。JR が無くなって、バスが無くなってどうするのか。コミュニティバスを運行していないと、どうして駅まで行くのか。
A 委員	これをやるにあたって、どこまで出来るのかがあり、高齢者の人口がどうなるのか。そういった支援策が計画的にどれくらいの期間できるのかをしないと、無くなっていくという断片的な想定が高齢者の交通支援をしていく上で将来的に一つのビジョンを 3 年、5 年を考え、この制度の見直しのプランが作れたらわかりやすい。 使いやすい使い勝手の良いプランの提案が出来たらわかりやすい。
E 委員	私は委員応募するときに、今おっしゃったことと同じことを書きました。三田市としては、どこを目指すのですか。何を考えているのですか。その中で今何を目指すのですか。ターゲットは誰ですか。まずそれを考えないととこういう仕事はできないのではないでしょうか。 聞いていたら、これはこれでやらなければいけないと思います。今は 10 年先バスが無くなるからどうかという話をするのではなく、まず、今から 1 年、2 年、3 年先を見据えてやっていかなければいけないと思います。大きく中長期ではないが、2，3 年先をターゲットにしてこれをやっていく。皆さんがおっしゃるようにもう少し先はどうなるのかは我々もわからない。国もわからないと思います。 そのためには、大きなグランドデザインがあって、それに向かって今回の検討会はここまでです。しかし皆さんはその先が不安だと思います。今後どうなっていくのか、三田市は何を考えているのか。市長さんのお考えになるかもしれませんが、そのグランドデザインの行程のなかで、我々は現在ここまで考えているのです。事務局はこのあたりのところの仕事をしています。だから皆さん協力してくださいと持っていくのがよいのではないかと思います。
H 委員	私は保険会社出身です。移動支援をされている方は任意保険に入っていない方が多いです。もらい事故はすごく多いです。横文字にする

	とライドシェアでかっこいいが、ひとたび何かあったときに、もしかしたらその人は任意保険に入っていない。免許証を持っていても精神疾患がある方が運転しているかもしれない。ひとたび何かあったときにだれが責任を取りますか。私は絶対に乗りません。私のまわりにも、友達に誘われて「ありがとう乗せてくださいね」と助手席に、運転の人は自分がぶつかりそうな時は瞬間わかるので軽傷である。助手席と後ろに乗っている人は大けがをされる。 　大学生でも事故があり友達が死んだり重症になる。ニュースでもいっぱいある。高齢の方の運転で並走していたら白線をこえてぶつかりそうになった。三田で運転しているだけでもはみ出して運転のご高齢の方がいっぱいいる。車は一瞬先、誰でももらい事故や誰でも同じように危険性がある。任意保険に入っている人は少ない。外国人も多い。
座長	時間になりましたので、閉めせてもらいます。ありがとうございました。
事務局	閉会 　次回　12 月 27 日（水曜日）14 時～